

就職活動、なんでこんなに大変なの？

2010.7.3

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」 <http://benkaku.typepad.jp/blog/>

一。職業選択を歴史的にみると

1。職業を選択する、ということは、基本的人権

【日本国憲法第22条】

「何人も、公共の福祉に反しない限り、居住、移転及び職業選択の自由を有する。
何人も、外国に移住し、又は国籍を離脱する自由を侵されない。」

2。「資本と労働」 - 資本主義社会に私たちは生きている

身分制がしかれていた封建制社会における労働

* 働くこと = 生きること。職業選択という自由は基本的にはなかった。

* 社会の圧倒的多数だった農民は、土地という生産手段にしばられていた
資本主義社会の生成と発展

* 二重の意味での自由な「労働者」 - 人格的な自由、生産手段からの自由

* 「自分はどんな仕事につくのか」という問いかけの発生。

* 青年期の「模索」の深まり、新たな苦悩。しかし、より自由になる途上の悩み。

* しかし資本と賃労働の関係、圧力が、必ずそこに入り込んでくる。

* また、平和であるからこそ、職業を選択する自由もある。

3。消費専門から、社会を支え担う一員へ

「考えてみたまえ。世の中の人が生きてゆくために必要なものは、どれ一つひとして人間の労働の産物でないものはないじゃないか。いや、学芸だの、芸術だのという高尚な仕事だって、そのために必要なものは、やはり、すべてあの人々が額に汗を出して作り出したものだ。あの人々のあの労働なしには、文明もなければ、世の中の進歩もありはしないのだ。ところで、君自身は何をつくり出しているだろう。世の中からいろいろなものを受け取ってはいるが、逆に世の中に何を与えているかしら。改めて考えるまでもなく、君は使う一方で、まだなんにもつくりだしていない。毎日三度の食事、お菓子、勉強に使う鉛筆、インキ、ペン、紙類、 - まだ中学生の君だけれど、毎日、ずいぶんたくさんものを消費して生きている。着物や、靴や、机などの道具、住んでいる家なども、やがては使えなくなるのだから、やはり少しずつなし崩しに消費しているわけだ。して見れば、君の生活というものは、消費専門家の生活とっていいね」

(吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫)

「生み出してくれる人がなかったら、それを味わったり、楽しんだりして消費することは出来やしない。生み出す働きこそ、人間を人間らしくしてくれるのだ。これは、何も食物とか衣服とかいう品物ばかりのことではない。学問の世界だって、芸術の世界だって、生み出してゆく人は、それを受取る人々より、はるかに肝心な人なんだ」(前掲書)

そして、

「世の中に立つ前の準備中の人なのだから、今のところ、それでちっとも構やしないんだ」「僕は心から願っている - 君がぐんぐんと才能を伸ばして行って、世の中のために本当に役に立つ人になってくれることを！」(前掲書)

二。日本の「就職活動」のゆがみと学生生活

1. 早期化、長期化—就職事情の変遷
90年代半ばごろまでは
* 集中一括採用、学歴重視、面接などによる総合的評価
97年頃から
* 通年採用、オープンエントリー(学歴不問) 専門性を追求(職種別採用)
* 就職協定が廃止され、各社は競って早期の採用活動に
* そして、長期化。内定のピークをすぎても内定がとれなかった学生の就活はさらに夏、場合によっては秋まで続く。
大学の授業やゼミ、知的探求のさまたげとなっている状況も広く指摘されている
2. 企業は何を基準に採用しているのか
最近の特徴・・・コミュニケーション能力、行動力、判断力。即戦力的な労働力。
* 大学の正課の授業、とりわけ講義課目への出席で獲得することが困難なもの。
一方で、学校歴による差別化も依然として根づよく残っている
企業の側の圧倒的有利性—学生の側は、企業にあわせた自分をつくる
3. 就職活動の本当の大変さ—入社3年で3割が離職
特定の業種や職種では、1年以内に5割の新入社員が辞めるところも
* 流通業、営業職、新興企業など
* 厳しいノルマ、長時間労働・・・それに耐えたものだけを会社に残すシステム
新入社員を育てようとせず、使い捨てにするような人事・労務管理が
* 派遣労働、非正規労働の増大も・・・不安の拡大、将来見通しの喪失
「働き続けたい、続けられる会社を選ぶ」 - 「就活」の本当のたいへんさが
4. 就職の困難さと学生生活
学生の行動・考えは、現在の社会状況・価値観に影響を受けやすい
* 財界から流されるイデオロギー
* 他人に勝る個性、競り勝つ能力、自己責任、努力至上主義
新入生のときから、進路・就職問題という課題を背負わされる
5. 「就職活動」のルールづくりを、就職難の打開を
日本共産党の政策から
6. どんな学びや学生生活が求められているか
真理の探究。社会的・総合的な知の構築。他者と協同する・共生する力と感性。
ほんとうの個性、人間らしい個性
仲間のなかで自由に議論することの貴重さ—そうした場と時間を
自分の五感で、社会の矛盾にふれ、問題意識を広げる